

令和5年3月24日  
琉球大学学長選考・監察会議

## 国立大学法人琉球大学学長の業務執行状況の確認結果について

琉球大学学長選考・監察会議は、国立大学法人琉球大学学長の業務執行状況の確認に関する申合せ（平成30年6月14日学長選考会議決定）に基づき、令和4年12月15日に、学長の業務執行状況の確認を実施した。確認方法は、学長による業務執行状況の説明及び学長選考・監察会議委員からの質疑により行った。資料は学長が作成した業務報告書を参照した。

学長の業務執行状況の確認結果は、以下のとおりである。

### 記

学長は前回の業務報告書を提出した令和3年11月19日以降これまでに、第3期中期目標・中期計画を締め括り、令和4年度からの第4期中期目標・中期計画及びこれと一体的に推進するための「琉球大学中期将来ビジョン」を策定し、取組を開始させた。

また、今年度は本学の長期ビジョンである「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」をさらに前進させるべく「琉大トランスフォーメーション(RX)」推進宣言を発信し、全学的な推進体制の整備を行った。

ダイバーシティという観点では、女性限定公募の積極的实施や、学長補佐などの要職への女性の積極的登用、あるいは女性研究者の育成と支援活動といった、男女共同参画およびダイバーシティの推進に向けた積極的な取組を行ってきた。これにより、女性教授の在職比率が令和4年10月1日時点で10%を超えたことは大きな成果である。

これらの取組には、学長のリーダーシップが強く現れており、特に注力していることが視えた。本学の将来的な在り方及び道筋になるものであり、個別の取組がもたらす発展性にも大いに期待できるものである。

教育研究活動においては、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育強化事業」に採択され、さらに、科学技術振興機構の「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」で地方大学として初めて、本格型及び育成型の2件が採択されたことは特筆すべきことである。これらの事業で、特色ある教育研究を推進することにより、全国及び地域での琉球大学の存在感をより示すものであること、地域連携・地域貢献としても大いに期待できるものであることを述べておく。

令和4年10月から11月にかけて第7回世界のウチナーンチュ大会が開催された。これに合わせて開催した記念シンポジウムでは、海外沖縄県人会と今後の交流促進について意見交換がなされ、留学生の受入・派遣を進めていく方向性であるとのことから、今後のグローバル教育又は国際連携の展開に期待したい。

新たな広報の取組として「統合報告書」の発刊があった。これは、従前の財務報告書に非財務情報を充実させて本学の存在意義を示すものであるが、これを見るだけで琉球大学の

戦略、活動実績などを把握できる内容となっており、広報の取組を大きく進めたものであると評価する。

以上は、特筆すべき又は新たに取り組まれている内容であるが、昨年の確認結果にもあったように、新型コロナウイルス感染症への対応、新研究科を含めた新たな教育研究等組織の設置、学内コミュニケーションの促進、キャンパス移転に向けた取組などについても継続的、発展的に取り組まれていることを確認した。

よって、学長は現在に至るまで、学長としてのリーダーシップを発揮し、その業務を適切に執行していると認められる。

以上

### 【学長選考・監察会議における主な所見】

- ・学長としての学外向けの活動、例えば沖縄県振興審議会会長を務め、多忙に関わらず地域のために貢献されている。経済界や民間と積極的にコンタクトを取り、地域貢献を模索している態度を大いに評価する。
- ・作成のハードルが高い統合報告書に着手され、かなり進んだ形で作成されたことを評価する。
- ・学長のイニシアティブで共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)に採択され、組織的かつ地元に着目したテーマで研究活動を実施していることは非常に大きな成果である。
- ・「数理・データサイエンス・AI 教育強化事業」でも全体をリードするような社会科学の特定分野校として採択されたことを大いに評価する。これらのことは、学長のリーダーシップのみならず、各教員の積極的な挑戦によるものと捉えている。
- ・女性教員比率が増えている状況からすると、人事やダイバーシティの取組にも目配りを感じている。女性教授が10%を越え、女性教員が20%を越えているのは、10年前からすると飛躍的な伸びであり、引き続き尽力いただきたい。
- ・コロナ禍において学内コミュニケーションを重視し、各種の改善取組を積極的に行っていることが窺える。
- ・大学の中期将来ビジョンを推進するためのビジョン計画を策定する等、着実な組織運営を図っている。
- ・次年度を展望する中で学長自身がリーダーシップを発揮し、RX推進プロジェクトを本格的に進めていく意欲や「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を創造していく前向きさを高く評価したい。
- ・医学部及び病院の移転について、今後の予算確保の必要性を理解されている。
- ・懇談の機会において、新任教員同士の繋がりが持てるような工夫であったり、RXのことについて、各学部長に直接に具体的説明をし、連携を密にしながら進めていく体制が見られ評価する。また、相談を受けてくれる雰囲気作りに配慮が感じられる。
- ・ビジョン計画という形で中期的な将来像を具体的に示してもらい、何をすべきか自覚が持てた。
- ・沖縄県のために尽力しているという印象を強く受けている。
- ・ローカルでありながらグローバルな視点を持って実践している。
- ・学長のリーダーシップはトップダウンではなく、方針を示しつつ構成員と会話することにより理解を得ながら進めるものであり、適切なリーダーシップ及びマネジメントと考える。
- ・ダイバーシティで女性教員比率が増えることもよいが、今後は学生選抜(入試)において、進学校ではなく特定の職業への就業に狙いを定めた高等学校から選抜することもダイバーシティの要素となるので、そのような生徒を評価するような新しい総合型選抜のようなものを検討いただくことを期待する。
- ・今回は、研究や国際交流について強調された報告であったが、新型コロナウイルス感染症の発生から3年ほど経過していることもあり、大学の主たるミッションである学生教育へのさらなる注力もお考えいただきたい。
- ・大学教員の人材育成が教育の内部質保証に繋がるとされており、着手することの困難はあると思われるがチャレンジしていただきたい。